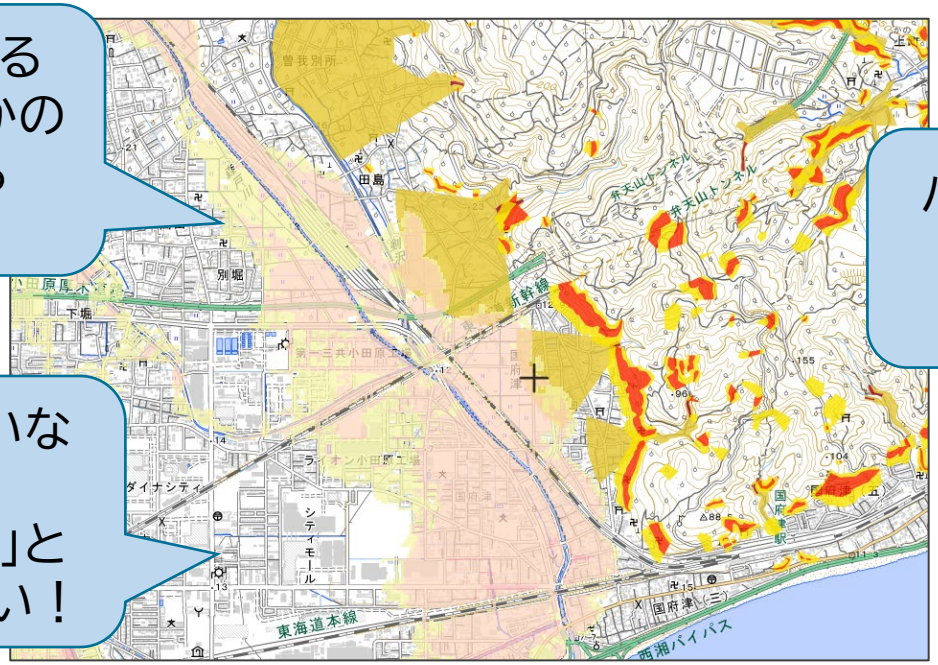
# 洪水・土砂災害ハザードマップの見方

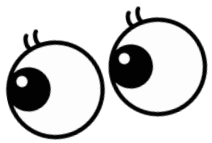
「ハザードマップ」は、起こりうる場所の情報を与えてくれる

ただし、決して完ぺきではありません・・・

「色が塗られているところでは、何らかの災害の発生する可能性がある」




ハザードマップは俯瞰的に見る情報の一つ



「色が塗られていないところは安全だ」と捉えるべきでない！

**家屋単位などの「ピンポイント」で厳格に読み取らない！**

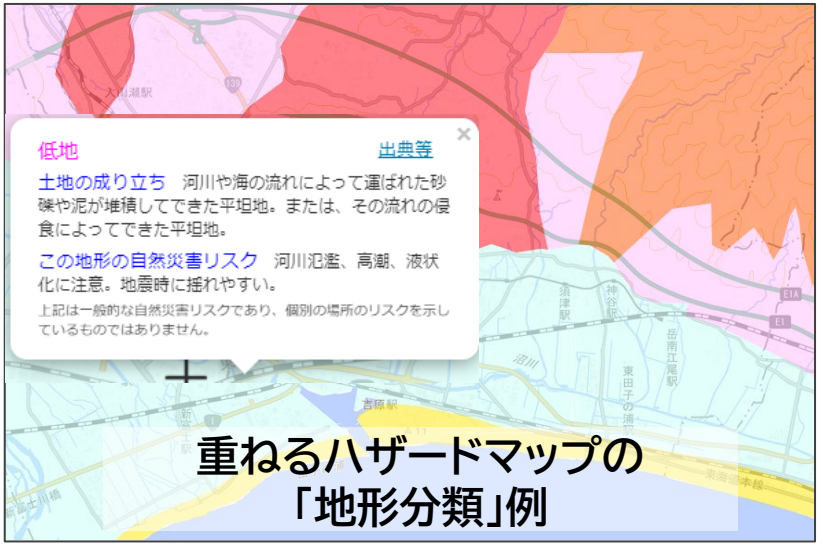
参考：自治体・企業の防災担当者のための防災ハンドブック（日刊工業新聞社）
「ハザードマップは有効だが、依存しすぎには注意が必要」静岡大学防災総合センター教授　牛山素行

# 洪水・土砂災害ハザードマップの見方

## 「洪水ハザードマップ」 注意すべきポイント

- 地形的に洪水の可能性がある場所でも、「中小河川」などでは洪水浸水想定区域の指定作業が行われていない可能性があります。
- 川と同じぐらいの高さ（低地）は洪水の可能性があります。

重ねるハザードマップの「洪水」例




重ねるハザードマップの「地形分類」例

参考：自治体・企業の防災担当者のための防災ハンドブック（日刊工業新聞社）
「ハザードマップは有効だが、依存しすぎには注意が必要」静岡大学防災総合センター教授　牛山素行

# 洪水・土砂災害ハザードマップの見方

## 「土砂災害ハザードマップ」 注意すべきポイント

- がけ崩れや土石流などが発生しうる場所であっても、人家などがまったくない場所は土砂災害警戒区域等の指定対象箇所にはなりません。
- 山間部には指定されていない危険な地域が無数にあります。

土砂災害警戒区域等の指定がなされていなくても
安全が保障されているわけではない。

**特に、風雨の激しい時などは、山間部の道路の通行は危険！**

参考：自治体・企業の防災担当者のための防災ハンドブック（日刊工業新聞社）
「ハザードマップは有効だが、依存しすぎには注意が必要」静岡大学防災総合センター教授　牛山素行